

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：17601

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19239

研究課題名（和文）多死を迎える能登の健やかな看取り環境創造のための住民参加型まちづくりモデル

研究課題名（英文）Community-Based Urban Development Model for Creating a Healthy End-of-Life Care Environment in Noto Amid Increasing Death Rates

研究代表者

板谷 智也（Itatani, Tomoya）

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：10765192

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：実践活動：羽咋市内の訪問看護師と病棟看護師へのインタビュー調査を実施し、市民や臨床医の意識、専門職の知識と技術の向上要因を明らかにした。市民向けのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を促進する寸劇動画を作成し、市のホームページで公開した。また、臨床医向けACP研修会と、介護職員向け終末期研修会を実施。さらに住民と専門職が意見交換する市民講座も企画した。成果：動画は多く再生され、地方新聞やテレビで報道されるなどの反響を得た。これらの活動を通じて、市内の事業所や専門職の連携が深まり、看取りや地域ケアについての対話が促進された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義：本研究は、高齢化地域での終末期ケア向上を図り、専門職が連携して住民の看取り意識を高める動画制作とACP促進の取り組みが在宅看取りに有効であることを示した。これにより、終末期ケアの教育や実践に新たな視点、および地域でのACPを促進するためのひとつのモデルが提供された。

社会的意義：動画の公開により住民が終末期ケアを理解し、自らの看取りを考えるきっかけとなった。地方メディアでの紹介や専門職の連携強化を通じ、地域全体でのケアの質向上に貢献した。2023年8月には市民公開講座を実施し、住民同士が対話する機会を設けた。これらの取り組みにより、地域全体でより良い看取り環境を構築する一助となった。

研究成果の概要（英文）：Practical Activities: An interview survey was conducted with visiting nurses and ward nurses in Hakui City, revealing factors that improve awareness among citizens and clinicians, as well as the knowledge and skills of professionals. A skit video promoting Advance Care Planning (ACP) for citizens was produced and published on the city's website. Additionally, ACP training sessions for clinicians and end-of-life care training sessions for care workers were held. A public lecture was also organized for residents and professionals to exchange opinions. Results: The video received numerous views and was reported in local newspapers and on television. These activities deepened the collaboration among local businesses and professionals, promoting discussions about end-of-life care and community care.

研究分野：在宅看護

キーワード：看取り 在宅看護 在宅ケア ACP 終末期ケア 終末期医療 訪問看護 訪問介護

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

石川県能登地域は多死社会を迎えつつあり、全国的な統計でも死亡場所の大半が病院であることから、能登地域でも同様の傾向が見られると考えられた。一方で、平均在院日数は短縮傾向にあり、地域内の介護施設等が看取りの場として十分な受け入れ能力を持っていないため、看取り難民の発生が懸念される。さらに、能登地域では在宅療養支援診療所や訪問看護ステーションが少なく、在宅看取りの環境が十分に整っていない。このような状況から、看取りの体制づくりが急務であると考えられた。能登地域の実情としては、自宅で最期を迎えたいと願う一方で、実際には病院で亡くなる場合が大半を占めており、能登の地域課題となっていた。

### 2. 研究の目的

本研究は、能登地域の住民の看取りに関する意識調査と住民参加型の交流会を実施することで、在宅医療・介護の整備と看取りに関する住民の協力体制を「健やかな看取り環境」として構築することを目的であった。また、この取り組みを地域のまちづくりのモデルとして形成し、住民と専門職が協力してより良い看取り環境を作り上げることを目的としていた。本研究は、在宅での看取りを促進させる要因を明らかにする学術的な目的に加え、実際に地域づくりに貢献するという目的もあった。

### 3. 研究の方法

本研究では、能登地域における在宅看取りの現状と課題を明らかにし、地域全体での看取り環境の向上を目指して、以下の方法を用いて活動を行った。

#### 訪問看護師へのインタビュー：

2021年10月に羽咋市内で勤務する訪問看護師および病棟看護師に対してインタビュー調査を実施した。インタビューでは、市民の意識、臨床医の意識、専門職の知識と技術の向上に関する要因を明らかにするため、内容分析を行った。

#### 啓発動画の作成：

市民のアドバンス・ケア・プランニング(ACP)を促進するため、市民および専門職向けの看取りに関する寸劇動画を制作した。この動画は市のホームページで公開され、広く市民に対して情報提供を行った。

#### 医師への研修会：

大学病院に勤務する臨床医を対象にACP研修会を実施した。研修会には訪問看護師を招き、地域の実情についての説明を行い、医師の理解を深めることを目指した。

#### 専門職への研修会：

市内の介護職員および介護支援専門員を対象にインタビュー調査を実施し、その結果を基に終末期ケアに関する研修会を開催した。この研修会では、訪問看護の実務経験を共有し、専門職の知識と技術の向上を図った。

#### 市民公開講座：

市民の集いの場であるコスモアイル羽咋にて、市民公開講座を実施した。この公開講座には地域住民と在宅での看取りに関わる専門職らが参加した。専門職らからは、在宅での看取りの実際について、住民に説明が行われた。また、実際に自宅で家族を看取った住民から体験記を語ってもらい、在宅看取りの実際について、住民の理解を促した。最後に、住民と専門職が一緒になり、グループで対話を行った。

これらの活動を通じて、在宅看取りの現状と課題を把握し、地域全体での看取り環境の整備に向けた具体的な方策を提案することを目指した。

### 4. 研究成果

#### 【市民アンケート調査】

2020年に市民アンケートの結果を分析(\*調査は2019年に実施)した結果、看取りの場所に関して、住民の希望と実際の死亡場所に差異があることが明らかになった。また、自宅で看取られることが難しいと考える理由として、「介護してくれる家族の負担」が多いことがわかった。一人暮らしの世帯、夫婦のみの世帯では、看取りに際し「介護できる家族がいない」と考えている割合が高いとわかった。

表 2-1 最期をどこで過ごしたいか

	値	%
自宅で最期まで過ごしたい	3886	59.1
病院などの医療機関	1544	23.5
老人ホームなどの施設	708	10.8
親族の家	48	0.7
その他	159	2.4
未回答	233	3.5

表 2-2 「最期を自宅で過ごせる」と思うか

	値	%
できる	1053	16.0
できない	5101	77.5
未回答	424	6.4

表 2-4 自宅での看取られるのは無理と思う理由

	あてはまる	%
住診してくれる医師がいない	660	12.9
訪問看護師がいない	330	6.5
介護してくれる家族がいない	1293	25.3
介護してくれる家族への負担	3662	71.8
具合が悪いときへの不安	1382	27.1
その他	92	1.8

表 2-5 看取りに際し「介護できる家族がいない」、「家族が負担」と感じる人の家族構成

	介護できる家族がいない		家族が負担	
	値	%	値	%
一人暮らし世帯	330	25.5	241	6.6
夫婦のみ世帯	437	33.8	1223	33.4
夫婦と親の世帯	104	8.0	437	11.9
夫婦と未婚の子のみの世帯	153	11.8	771	21.1
ひとり親と未婚の子のみの世帯	120	9.3	187	5.1
3世代世帯	69	5.3	627	17.1
上記以外で親族と同居している世帯	51	3.9	81	2.2
その他	21	1.6	57	1.6

### 【訪問看護師へのインタビュー調査】

自宅での看取りを支える訪問看護師および病院の看護師へのインタビュー調査を 2021 年に実施した。このインタビューの分析によって、自宅での看取りに関連する要因として、医師、訪問看護と介護、病院、住民の意識の四つの要素が明らかであった（下記に抜粋する）。

#### 医師

看取りに関して意識が低い場合があり、自宅に帰れる場合でも入院しているケースがある。在宅での療養者を訪問する医師が限られており、一部の医師に大きな負担がかかっている。

#### 訪問看護と介護

訪問看護は人材が不足しているが、そもそも訪問看護師の養成が十分ではない。訪問介護も不足している。また、看取りに対して不安が大きく、対応を断るケースもある。訪問看護師を支えるツール（遠隔デバイス等）がない。

#### 病院

病院の医師や看護師がターミナル期について理解していない場合がある。大学病院と地域の総合病院がうまく連携できていない場合がある。

#### 住民の意識

看取りに関して関心がなくリテラシーが低い  
本人、家族が看取りに対して不安をもっている

## 【啓発動画の作成】

看取りの啓発のための動画を作成した。動画は地域の専門職らが集まり、自分たちで脚本を作成し、演じて作成した。作成された看取りに関する寸劇動画は、羽咋市のホームページで公開され、公開後1カ月で数百回再生されるなど多くの反響があった。また、地方新聞やテレビ番組で報道され、広く市民に認知されることとなった。この活動を通じ、市内の事業所や専門職間の連携が深まり、看取りや地域ケアについての話し合いが促進された。

### 【住民の意識の課題】

- 自分の思いを表示しない住民が多い
- ACPが浸透していない
- **そもそも自宅での看取りはイメージわかない！**

【看取り動画の作成】  
地元の専門職が集まり、よくある看取りのシーンを寸劇で表現、動画を作成



それぞれが見てきた現場をイメージして演技



看取られた人や家族の気持ちを代弁、迫真の演技



北陸中日新聞に掲載



## 【大学病院の医師に対する研究会】

訪問看護師へのインタビューの結果、病院の医師への働きかけが重要だとわかった。そこで県内の大学病院の研修医を対象に ACP (アドバンスケアプランニング) に関する研修を実施、同時に地域の総合病院との連携についても話し合った。

## 【介護職員へのインタビュー調査】

自宅での看取りを支える介護職員のインタビュー調査を 2022 年に実施した。このインタビューの分析によって、自宅での看取りに関する介護職員の要因がいくつか (下記に抜粋する)。

### 介護職員が抱く不安や疑問

介護職員は急変時の対応や、看取りの経過が分からず不安である。

看取りに際し、自分の対応がそれによかったのかわからず不安がある。

### コミュニケーションの課題

急変時に、医療職に何を伝えていいかわからない。

看護職とのコミュニケーションが難しい。

「もう死ぬの?」と聞かれた時に何と答えていいかわからない。

### 必要なスキルアップや研修会の必要性

医学的な知識を高めるための研修が必要。

コミュニケーションに関する研修も必要。

一方で、グループワークに医師や看護師がいると身構える。

### 連携の課題

同じ事業所の看護師がいると連携がとりやすい

他の事業所の看護師は疑問があっても聞きにくい

このインタビュー結果の要点としては、介護職員は看取りに対して不安があり、そこを解消するためには訪問看護との連携が必要だと明らかになった。

## 【介護職員に対する研修会】

介護職員を医療知識の向上（主に看取りの経過）、および連携の促進を狙いとした研修会を実施した。この研修会を実施することで、医療知識と連携が向上しただけでなく、介護職員の自尊心を高めることにもつながった。オンデマンド動画教材も作成した。

### 調査を踏まえた現場での実践

#### 【訪問介護の課題】

- 人材が足りないというよりもー
- 看取りのケアを受けない事業所が多い
- 「看取りの経過がわからない、こわい」

訪問介護へのインタビュー調査  
看取りに対応できる事業所、できない事業所  
訪問看護との連携が鍵！



#### 【研修会を定期的開催】

- 対話を重視、意見交換を踏まえて研修会を実施
- 事業所間での意見交換「みんなどうしている？」
- ◆ 「看取りについての意見交換会『介護職の方から看取りに関する思いを報告・グループワーク』(羽咋市:看取りについての意見交換会:2022年12月)
- ◆ 「みんなで考える看取り」(羽咋市:介護職に対する看取り研修会:2022年2月)
- ◆ 「健やかな看取り環境を羽咋でつくる」(羽咋市在宅医療/介護連携推進協議会 看取りに関する研修会:2021年2月)



オンデマンド教材を作成  
研修会で要望のあった内容を動画にまとめ、動画配信サイトで公開

20

## 【人材育成に関する活動】

訪問看護師へのインタビューの結果、訪問看護の人材育成に課題があることが明らかになった。そこで、県内の大学に訪問看護師を招き、訪問看護の実際について講義を行ってもらった。また、県の在宅医療・介護連携推進担当者研修に参加し、訪問看護師養成に関する要望を伝えた。

## 【市民公開講座】

住民と専門職が集い、実体験を交えて意見交換を行う市民講座が企画された。これにより、地域全体での看取り環境の整備が進み、住民と専門職が協力してより良い看取り環境を構築する一助となった。

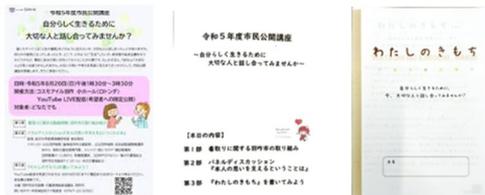
### 調査を踏まえた現場での実践

#### 【住民の意識の課題】

2023年8月20日コスモアイル羽咋  
市民公開講座を開催

#### 【内容】

1. 看取りに関する羽咋市の取り組み
2. パネルディスカッション  
「本人の思いを支えるということは」:事例紹介
3. 「わたしの気持ち」を書いてみよう



右は改訂版の「わたしのきもち」  
市民の意見を元に作成、イラストも有志メンバーの自作



動画「わたしのきもち」



開催会場



パネルディスカッションでは事例と社会資源について説明



参加者と一緒「わたしのきもち」を書き、話し合いました



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 板谷 智也, 戸上 央, 佐無田 光, 柳原 清子, 中井 寿雄, 加藤 穰	4. 巻 24
2. 論文標題 高齢化が進む石川県羽咋市における「看取り」の意識に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷 智也, 平子 紘平, 佐無田 光	4. 巻 23
2. 論文標題 石川県羽咋市における全住民基礎調査と「地域ニーズと資源のマッチングシステム」の開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板谷 智也, 池内 里美, 戸上 央, 柳原 清子	4. 巻 25
2. 論文標題 住民と専門職の一体的活動による健やかな看取り環境創造モデル：石川県羽咋市での取り組み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平子 紘平, 板谷 智也, 原田 魁成, 佐無田 光	4. 巻 18
2. 論文標題 行政・地域データの横断的連結モデルによる多角的分析とEBPMへの活用：石川県羽咋市での健康増進分野を事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 地域活性研究	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 久仁子、塚崎 恵子、京田 薫、板谷 智也、遠田 大輔、中井 寿雄	4. 巻 45
2. 論文標題 日本のケアマネジャーにおける認知症の行動・心理症状のケアマネジメントに影響を与える要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of wellness and health care = Journal of wellness and health care	6. 最初と最後の頁 47～57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00065213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 板谷智也, 池内里美, 柳原清子
2. 発表標題 高齢化の進む石川県羽咋市における在宅での看取りを促進する要因 市内で勤務する看護師へのインタビューから
3. 学会等名 第26回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板谷智也, 中井寿雄
2. 発表標題 介護予防・日常生活支援総合事業の設置を推進または阻害する要因の探索
3. 学会等名 日本ケアマネジメント学会第21回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 板谷 智也, 中井 寿雄
2. 発表標題 高齢化が進むB市における高齢者単独および夫婦のみ世帯の「看取り」の意識に関する研究
3. 学会等名 第26回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 板谷 智也, 平子 紘平, 佐無田 光
2. 発表標題 高齢化が進むB市における40歳以上の全住民を対象とした「看取り」に関する意識調査
3. 学会等名 2020在宅医療連合学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板谷 智也, 戸上 央, 池内 里美, 谷 智美, 前川 馨, 松田 真弓, 小堀 慶子, 森川 みなこ, 中元 美幸, 品川 真沙美
2. 発表標題 より良い看取り環境を目指して住民と専門職が一体となって活動するまちづくりの実践報告 石川県羽咋市の取り組み
3. 学会等名 第28回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 板谷 智也, 谷 智美, 戸上 央
2. 発表標題 専門職らが共同してつくった看取り動画「わたしのきもち」 専門職らが協働してつくった看取りを考える寸劇動画「わたしのきもち～自分らしい最期を迎えるために～」
3. 学会等名 日本地域看護学会第26回学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	戸上 央  (Togami Chika)	三重県津保健所・保健師	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	池内 里美  (Ikeuchi Satomi)	金沢大学・医薬保健研究域・助教	
研究協力者	谷 智美  (Tani Tomomi)	羽咋市・地域包括ケア推進室	
研究協力者	前川 馨  (Maekawa Kaoru)	前川医院・医師	
研究協力者	松田 真弓  (Matsuda Mayumi)	公立羽咋病院	
研究協力者	小堀 慶子  (Kobori Keiko)	訪問看護ステーションあわら・看護師・管理者	
研究協力者	森川 みなこ  (Morikawa Minako)	たきのーほーむ風和里	
研究協力者	中元 美幸  (Nakamoto Miyuki)	羽咋市在宅総合サービスステーション	
研究協力者	品川 真沙美  (Shinagawa Masami)	介護センターほのぼの	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	加藤 穣  (Kato Yutaka)	滋賀医科大学・医学部医学科医療文化化学講座・教授	
研究協力者	佐無田 光  (Samuta Hikaru)	金沢大学・融合研究域 融合科学系先端観光科学研究所・教授	
研究協力者	平子 紘平  (Hirako Kohei)	金城大学・総合経済学部・准教授	
研究協力者	原田 魁成  (Harada Kaisei)	金沢大学・人間社会研究域 経済学経営学系・講師	
研究協力者	柳原 清子  (Yanagihara Kiyoko)	長野県立看護大学・看護学部・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関